



2020春闘シリーズ⑧



要求満額獲得に向けて職場から交渉団を支えよう!

申21号第2回交渉でJR労働者の思い訴える

中央本部は3月6日賃金引上げ第2回交渉を行い、職場で働くJR労働者の思いを強く会社側にぶつけました。

【経営状況や社員の生産性向上について】

- (組) 変革 2027 の 2022 年の数値目標は変更、修正する考えは？
- (会) 第3 四半期は厳しい状況のため業績見通しは下方修正したが、それについて数値変更する予定はない。
- (組) 生産性向上が全体、一人当たり共にかかなり上がっているが。
- (会) 会社発足時からニーズが減る中で収入を上げていることからすると、一人当たりの生産性は上っている。
- (組) 将来の不透明感に対して戦略を打ちながら利益を着実に積み上げている。我々の要求に対する体力はある。
- (会) 出来る体力があるかないかで言えば「ある」。労働組合側からの要求を一切やらない訳ではない。
- (組) 6000 円の要求は年間で多く見積もっても 90 億円のプラス。平成 26 年位の人件費。決して突出している訳ではなく理性的。

【第二基本給廃止、終身雇用・年功序列型賃金維持】

- (会) 第二基本給は国鉄から JR になる時、退職手当に関わる人件費抑制のために設けられた。背景とすれば国鉄が破綻し借金が多くあった。
- (組) 環境の変化で様々見直しているのに、第二基本給だけは発足時の考えを踏襲しているのか。JR 以降採用の社員が多数を占める中でどのように理解させているのか。
- (会) 当時の経緯と言うよりは制度として理解した上で入社している。理解不足の点については何か発信すべきと思う。
- (組) 労使で決定した賃金と雇用形態で働くことでどんな局面でも頑張れる一つの動機づけとなる。

どんな状況下でも公共性を保つ JR 労働者に会社は応えるべきだ!